

2011 年度 心コミ大賞 テキスト作品部門 審査結果並びに講評

<審査員> 大島、デビッドソン、田辺、片岡、谷

【テキスト作品部門】

心コミ大賞 : Oshima Award 該当無し

審査員特別賞 「おちる」 佐藤 雄磨

奨励賞 「てるてる坊主と小さな芽」 金子 沙斗美

講評:

フィクションが2作品、ノンフィクションが1作品でした。社会派あり、ファンタジーあり、ルポルタージュありとバラエティに富んだテーマに取り組んでくれました。応募作はすべて心コミの学生からであったため、この学生にこんな才能があったとは、との驚きの声も聞かれました。

昨年に続き、荒削りながら磨けば光る才能を感じました。今年は社会派の小説も登場し、審査員一同楽しませてもらいました。普段は気づかない学生の意外な才能や頑張りに感心もさせられました。「書く」ことが成長につながることを実感しています。

心コミ大賞 : Oshima Award 該当無し

審査員特別賞 「おちる」 佐藤 雄磨

審査員特別賞の「おちる」は、いじめをテーマにした小説です。緊張感のある構成、巧みな描写で現実の残酷さを浮き彫りにしています。文体、表現ともに才能を感じさせてくれます。その一方で、作品としてはまとめ方が不十分、もっと意外な展開があってもよかった、などの意見もあり、最終的には今後に期待をしたいということで審査員特別賞となりました。ぜひ今後も書き続けていただきたいと思います。

奨励賞 「てるてる坊主と小さな芽」 金子 沙斗美

奨励賞の「てるてる坊主と小さな芽」は、てるてるぼうずと女子高校生との交流を描いたファンタジー作品です。設定や展開は70～80年代の少女漫画のストーリーを思い出させます。書き手の思い入れが強いゆえなのか、しばしば論理の飛躍が見られ感情移入が難しいという難点はあるものの、独自の世界を創り出す力がある、絵本にしたら面白いのでは、などの評価もあり、今後の成長を期待して奨励賞としました。書くことでさらに自分を成長させていってください

他の応募作品への講評は以下の通りです。

「初挑戦！ホノルルマラソン～完走までの8ヶ月～」 田所 由衣

惜しくも受賞には至らなかった「初挑戦！ホノルルマラソン～完走までの8ヶ月～」はまっすぐな文章で、ホノルルマラソンに向けて練習を重ねていった様子もよく描かれていました。作品として残すことで、自分にとってもよい記録になったのではないのでしょうか。主観的な記述を抑え、客観的な描写を増やすとよいルポになると思います。